

川崎病患者血清中の抗カルジオリピン抗体検出とその意義
(分担研究：川崎病の病因および発症機序に関する)
免疫病理学的研究

奥村 康¹⁾, 白井 俊一²⁾, 吉木 敬³⁾,
柳瀬 義男⁴⁾, 平野 隆雄⁵⁾

要約 川崎病患者20例について、血清中の抗カルジオリピン抗体の検出を行った。検索した川崎病患者血清20例中13例(65%)において、IgG抗カルジオリピン抗体が検出された。動脈瘤の存在する9症例中においては、7例(78%)と高率に、陽性の抗カルジオリピン抗体を血清中に検出することができた。

見出し語：

研究目的、方法 川崎病の病理所見は、全身の血管炎に代表されるが(1)、その血管炎の病因は全く不明であるといつてよい。昨今、米国の研究者達によって、血管内皮に対する抗体の存在等が指摘されているが、我々の手法をもって未だ彼らの結果を証明出来ない。そこで観点を変えやはり全身の血管炎等を併発する各種自己免疫疾患で検出される(2)抗リン脂質抗体のうち、特に抗カルジオリピン抗体の存在を検索した。年齢を問わず、川崎病20例、正常人10例について検討した。方法は、Harrisら(2)の方法にしたがって検出した。ELISAプレート100 μ g/mlのカルジオリピン(CL)をcoatingし、室温にて乾燥固定

後、PBS-10%FCSにて洗浄後、陽性標準血清と陰性コントロールの存在のもとに、被検血清を加え反応させた。洗浄後、ペルオキダーゼ抗ヒトIgG抗体を加え、その後、発色剤を反応させELISAオートリーダにて抗体価の検出を行った。

結果 発症経過の日数に関わらず、川崎病患者血清20例中13例(65%)にIgG抗カルジオリピン抗体陽性を認めた。正常人10例は全て陰性であった。臨床的に、UCG上動脈瘤の存在を認めた9例中7例(78%)には、さらに高率に抗カルジオリピン抗体の存在を検出することができた。

-
- 1) 順天堂大学医学部免疫学(Dept. of Immunol., Juntendo Univ., School of Medicine.)
 - 2) 順天堂大学医学部病理学(Dept. of Pathol., Juntendo Univ., School of Medicine.)
 - 3) 北海道大学医学部病理学(Dept. of Pathol., Hokkaido Univ., School of Medicine.)
 - 4) 日赤医療センター小児科(Dept. Pediatrics, Japaness Red Cross Medical Center.)
 - 5) 順天堂大学医学部膠原病内科(Dept. of Internal Med., Juntendo Univ., School of Medicine.)

考察 川崎病の病因に関しては、未だ明らかにされている事象は少ないのであるが、病理学的には全身の微小血管炎(1)の存在が大きな所見としてとらえられている。血管炎、血栓症についての関連性が注目されている抗リン脂質抗体に着目し、本研究では抗体の検出をおこなったが、川崎病患者血清中、抗カルジオリピン抗体は65%と高頻度に出現し、しかも動脈瘤の存在する症例に高率に検出された。新たに見いだされた自己抗体である抗カルジオリピン抗体検出の川崎病における意義は、現在のところ不明であるが、(1)高力価の抗体が高頻度に出現している点、(2)動脈瘤の存在する症例に高率に出現する点等興味深い点が多く、また、血管炎との関連性ととも、今後、十分検討する意義があると思われる。

文 献

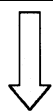
- 1) 濱島義博 川崎病 日病会誌
66:59-62, 1977
- 2) Harris E. N. et al. Antiphospholipid antibodies-autoantibodies with a difference. Ann. Rev. Med. 39:261-271, 1988
- 3) Harris E. N. et al. Anticardiolipin antibodies : Defection by radioimmunoassay and association with thrombosis in systemic Lupus Erythematosus.
Lancet (26) 1211-1214, 1983

Abstract

Detection of anti-phospholipid autoantibodies in Kawasaki disease

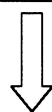
Okumura, K., Shirai, T., Yoshiki, T.,
Yanase, Y. and Hirano, T.

The anti-phospholipid antibodies in the sera of Kawasaki disease patients were examined by solid phase anti-cardiolipin antibody tests. The incidence of the antibody positive cases in Kawasaki disease was extremely high (65%) comparing to the control normal group (0%) regardless of time course of the disease. The occurrence of these antibodies has been associated with the coronary dilatation (75%). These results indicated that this autoantibody elicited by the unknown agent may play a role in pathogenesis of systemic vasculitis accompanied to Kawasaki disease.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 川崎病患者 20 例について、血清中の抗カルジオリピン抗体の検出を行った。検索した川崎病患者血清 20 例中 13 例(65%)において、IgG 抗カルジオリピン抗体が検出された。動脈瘤の存在する 9 症例中においては、7 例(78%)と高率に、陽性の抗カルジオリピン抗体を血清中に検出することができた。